

今年も目指そう 1等比率90%以上!!

稲作管理情報 第2号

2021年4月3日
いなば農業技術者協議会
○事務局【JAいなば営農指導課】
小矢部市赤倉97 TEL67-8000
【西部支店】67-8200 【東部支店】67-8300
【南部支店】61-8900 【福岡支店】64-8600
○高岡農林振興センター 26-8480

〇コシヒカリの育苗日数(播種日～田植日)は、“20日間以内”を目安とし、老化苗にならないように計画的な育苗作業に努めましょう。

◎育苗計画【コシヒカリ:5/15 田植えでの育苗計画】(中山間地域は、JAいなば営農指導員にご相談ください。)

4月														5月																		
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
・浸種期間(7~10日間程度) エコホープDJ ・浸種水温は10~15℃を確保 種子消毒 ・浸種積算温度は100℃以上を確保														育苗(播種日含めて20日間以内) ※ハウス内の温度が25℃以下となるよう、換気を徹底(緑化) (硬化) 夜間も換気を行う																		
催芽 陰干し 播種														出芽 搬出 田植え																		

1. 育苗準備

(1) 器材の消毒 育苗箱等はイチバン液剤(500倍)で消毒する(しっかりと乾かしてから使用する)。

(2) 種籾の準備(乾籾の必要量)

品種	1箱当り播種量		準備乾籾量※ (kg/10a)
	乾籾量(g)	出芽籾量(g)	
てんたかく			
コシヒカリ	120	150	3.2
てんこもり			
五百万石	140	175	3.7
新大正糯	120	150	3.2

※準備乾籾量(kg/10a)は10a当り育苗箱22枚として算出

(3) 比重選

◇比重液(水10ℓあたり)の調整

	比重	硫安
うるち	1.13	2.5kg
糯・酒米	1.08	1.5kg

- ・比重選を行う際は、硫安はよく溶かしてから使う。
- ・比重選で沈んだ種籾は、十分に水洗いを行い、硫安をよく洗い流す。
- ・品種毎にネット袋の色を変えるなどして、取り違えを無いよう工夫する。

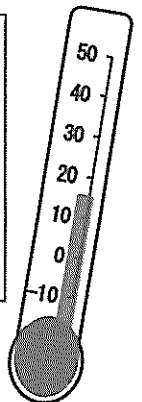
2. 育苗手順

(1) 浸種

- ・種籾は種籾袋に詰めすぎないよう、余裕を持たせる。
- ・浸種の水温は必ず10~15℃を保ち、種籾が露出しないように、種籾10kgに対し水20ℓで浸種する。
(屋外での浸種する場合は、浸種桶にシートを掛けるなどして直射日光にさらさないよう注意する。)
- ・特に浸種開始日は、水温12℃を確保するよう努め、その後は2日おきに水の入れ替えを行う。
- ・その際に種籾ネットを良く揺すり、上下を入れ替える。(種籾への吸水と酸素供給)
- ・今年の種籾の休眠程度は概ね平年並みであることから、浸種完了の目安は「種籾の胚乳がアメ色で透明になった頃」とする。
- ・温度計を設置して、浸種水温をこまめに確認する。

◇種子籾の浸種作業の目安

浸種水温	日数	浸種積算温度
15℃	7日間程度	100℃以上
10℃	10日間程度	



(2) 種子消毒

①(新規採用)エコホープDJの場合(蒸気式育苗器で催芽)

浸種期間中の最後の2日間で、エコホープDJの処理を行う。

◇乾籾量に対する薬液量(希釈倍率200倍液)

乾籾重	水	エコホープDJ
10kg	20ℓ	100g
50kg	100ℓ	500g

②温湯消毒について

- ・割籾の多い種子(てんたかく等)や糯品種は、温湯消毒を行うと発芽率が低下する恐れがあるので、エコホープDJや化学農薬での種子消毒を行う。

時期	処理方法
浸種前	60℃の温湯に入れ、10分間浸漬し、処理後は直ちに流水で冷やす(温度と時間を厳守する)。

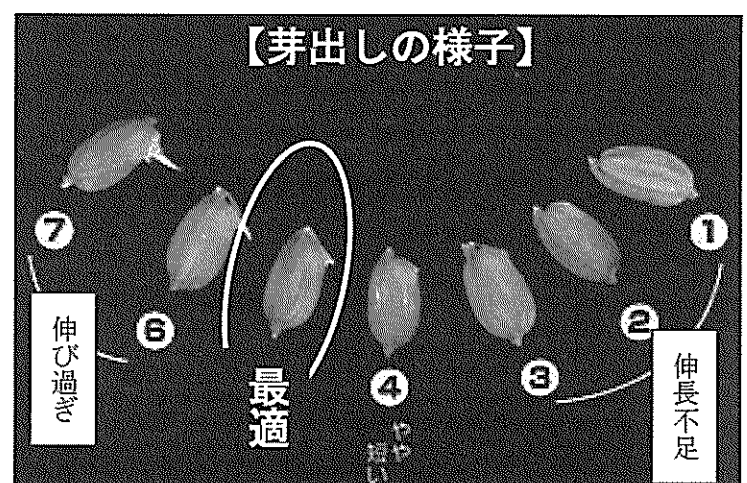
(3) 催芽

- ・催芽は、原則として育苗器(蒸気式)を使用する。
※事前に試運転を行い、サーモスタット(温度調節装置)が正しく作動するかどうかを必ず確認する。
- ・催芽の温度は30℃で、芽長は2mm程度の「ハト胸」状態に揃える。

【(新規採用)エコホープDJを使用する際の注意事項】

- ・乾籾は、消毒済種子を使用しない(エコホープDJの効果失われる為)。
- ・むしろ等は、ばか苗病の伝染源となるので使用しない。
- ・本剤への浸漬時の水温は12~15℃、浸漬時間は24~48時間とする。
※薬剤の効果安定のため、薬液温度は10℃以下にしない。
- ・種籾袋を浸ける時は、袋を揺すって十分に袋の中まで薬液を浸透させる。
- ・消毒後は種籾袋をゆっくり取り出す(液を落とさない)。
- ・浸種後は、陰干しして播種に備える(水洗い及び天日干しは不可)。
※冷水による芽止めは控える。

■本剤は、育苗期間中、覆土表面等に「青かび」が見られる場合がありますが、これはエコホープDJの菌であるため、その後の苗の生育には影響ありません。



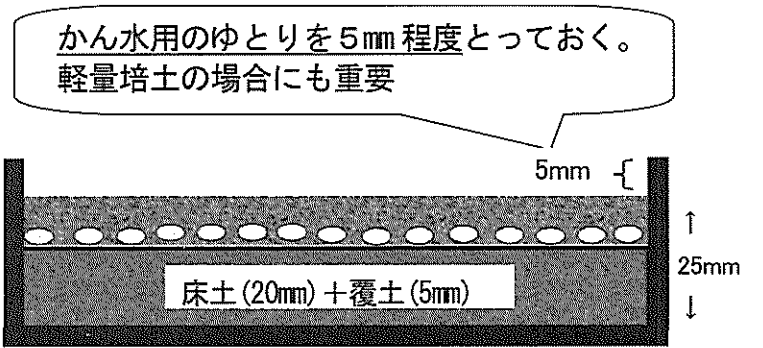
*裏面につづく

(4) 播種

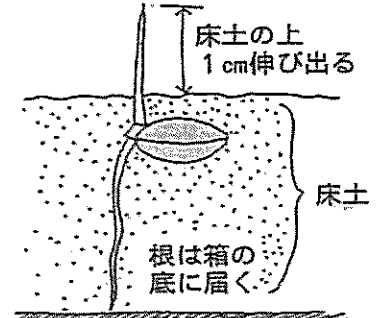
- ・芽出し粗は、握っても手に付かない程度にまで陰干しを行う。
 - ・品種、催芽状況、種子の乾き具合により種子の落下量が異なるので、作業を始める前に試し播きを行い、播種量を調整、確認する。
 - ・覆土は箱当り1kg(5mmの厚さ)を目安に行う(転び苗等の防止)。
 - ・かん水量は、播種までに床土表面の水が引き、覆土後に覆土表面に水がにじみ出る程度とする。
 - ・エコホープDJで種子消毒を行った場合は、ダコレートを使用しない。
 - ・ルーチンブライト箱粒剤は「播種時(覆土前)～移植当日」で使用する。
- ※農薬使用の際は必ずラベルの記載内容を確認し、使用時期や使用量を遵守して使用する。

【軽量培土使用上の留意点】

- ◇使用する軽量培土の性質(吸水性・保水性)を確実に理解して、かん水の仕方など十分注意する。
- ・前年からの持ち越した培土は吸水性が低下している場合があるので使用しない。
- ・播種時の覆土ムラで種子が露出しないよう覆土量を調整する。



【播種時の床土・覆土の様子】

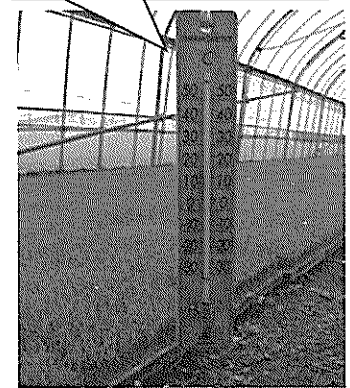


【搬出時の芽の様子】

(5) 出芽

- ・出芽温度は30℃に保つ(温度厳守)(29℃以下では出芽が遅れ、かつ芽揃いが悪く、30℃を超えると細菌病等が出やすくなる)。
- ・途中で、こまめに温度や出芽状況を確認する。棚上段の出芽状況で判断せず、棚中段の出芽状況を確認する(葉鞘が覆土上に1cm程度出芽したら終了)。

温度計の測定部位を苗の高さに設置



【ハウス内の温度計設置】

(6) 搬出作業

- ・低温時に搬出すると生育が不順になるので、寒い日の搬出は控える。
- ・搬出後、覆土が落ち着く程度のかん水を行う。
- ・種籾が露出している場合は覆土を加えるとともに、苗の白化を防ぐため、速やかに寒冷紗等を掛け、2～3日の間遮光に努める。
- ・ハウス内には、必ず温度計を苗の高さに設置し、適温を保つよう管理する。
- ・搬出直後でもハウス内の温度が高い(25℃を超える)場合は、細菌病の発生や苗の軟弱徒長を助長するので換気を徹底する。

(7) ハウス内管理

①緑化期 ～急に直射日光を当てず、昼25℃以下、夜10℃以上を保つ～

- ・苗が緑化した段階で、速やかに被覆資材をはずす。
- ・緑化中は水分状態をこまめに確認し、覆土が乾けば適宜かん水する。ただし、夕方のかん水は控える。
- ・ハウス内の温度を25℃以下、10℃以上を目安に保つ。
※25℃を超えると、ヤケ苗や細菌性病害の発生が助長されます。
- ・晴天になるとハウス内の温度は、急激に高くなるので換気に努める。また、苗の乾きにも注意する。
- ・夜間等気温の低下(5℃以下)が予想される場合はハウスを早めに閉めるとともに、生育停滞やムレ苗の発生が懸念されるので被覆資材で保温やストーブ等で加温する。

【育苗期間中の温度管理の目安】

苗のステージ	緑化期	硬化期
育苗日数	2～3日	13～15日
温度	昼	25℃以下
	夜	10℃以上

②硬化期 ～昼は換気に努め、田植えの1週間前頃からは夜間も換気～

- ・ハウス内の温度が上がる前に換気し、ハウス内の温度が25℃以下、夜は10℃以上に保つ。
※強風時でも温度が高い場合は、風下のすそを開けて換気に努める。
- ・硬化期のかん水は、1日1～2回とし、早朝に箱の底まで十分に水が浸透するよう、たっぷりとかける。
- ・田植えの1週間前頃からは昼夜ともにハウスを開け、十分に外気に慣らす(低温や強風が予想される場合を除く)。

③強風時のハウス管理

- ・育苗期間中に強風が予想される場合には、予め育苗ハウスのビニールやハウスバンド、防風ネット等の損傷やゆるみなどを点検し、必要に応じて補強する。また育苗ハウス周辺に置かれている農業資材など風に飛ばされやすいものは片付ける。

詳細は「令和3年度栽培ごよみ(水稲)」を参照ください。

農作業安全について【春の農作業安全運動：4月1日～5月31日】

春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。農業者の皆さんで農場や用水路の危険箇所の把握・改善や余裕を持った作業計画など、事故を未然に防止する対策を徹底する。

【特にトラクターによる作業事故が多いので、下記の①～③などの対策を徹底する】

- ①トラクターの事前点検や危険箇所の事前把握、ブレーキの連結確認に努める。
- ②乗車時にはシートベルト、ヘルメットを着用する。
- ③安全フレームは折りたたんだままにしないで、正しく使用して事故の予防に努める。

